



遠藤 修三 (えんどう しゅうぞう)

昭和50年頃に国立市防犯協会入会后、平成15年から今日にいたるまで富士見台東支部長として、市民の安心・安全を見守り続けています。

くにたちを安全・安心な街へ

国立市防犯協会について。

昭和35年12月に、国立町防犯協会として設立。その後、市制施行にともない、名称を「国立市防犯協会」とし現在の形になりました。

市民の防犯思想を普及高揚し、自衛防犯の実を挙げ、立川警察署並びに立川地区防犯協会の行う防犯活動に協力するとともに会員相互の親睦と国立文教地区の環境維持育成を図ることを目的として活動しています。市内を地域ごとに11の支部に分かれて活動しており、活動内容も支部ごと違いがあります。

国立市防犯協会に入会したきっかけを教えてください。

昭和42年頃、富士見台の区画整理完了に伴い住宅が建てられ各丁目ごとに自治会が結成されました。自治会で防犯推進委員になったのをきっかけに入会しました。以来、今まで防犯協会員として防犯活動を行っています。

防犯協会ではどのような活動をされてきましたか。

立川警察署の指導を受けながら、以下のような防犯活動を行っています。

○侵入盗犯撲滅のため、個別訪問をして外出時、鍵をかけるよう指導  
○さくらフェスティバル、市民まつり等の会場で来場者に防犯意識高揚の広報宣伝活動。  
○市内小学校の児童の登下校見守り活動

○青色防犯パトロールによる市内のパトロール  
○盆踊り会場の警備、パトロール  
○年末・年始の富士見台1丁目・2丁目の警備  
○振り込め詐欺撲滅活動

国立市や国立市民の防犯意識はいかがですか。

全体として市民の意識は低いと思います。これは、どんなことにも言えることと思いますが、一部の関心のある方、関係者だけは高いと感じます。そのため、多くの方が集まる祭礼などの行事や、年末・年始の警備やパトロールで皆様の目に触れ、防犯意識をもってもらえるように努めています。

国立市防犯協会の今後の課題等あれば教えてください。

青色防犯パトロールの講習会などがほとんど開催できていないことです。コロナ禍になってから様々なイベントやそのための準備の機会が減ってしまいました。その中でも青色防犯パトロールは広く市民の目

に触れる防犯活動の一つであると考えます。

青パトに乗るには、講習受講終了証を携帯して乗車することになっていますが、コロナ禍になってから2回しか講習会を開催できていません。長引くコロナ禍ではありますが、あらゆる災害の元でも、防犯協会としてどう活動できるか、していくかが課題です。

最後に一言お願いします。

国立市防犯協会は各支部ともボランティアで活動しています。より多くの方に防犯協会を知ってもらい、防犯への意識を高め、きちんと講習会などで学び・活動し市民の安心・安全を見守っていただければと思います。



『令和4年11月6日市民表彰式典』  
表彰状授与の様子